



## 高齢化社会に今何が必要か

### ——高崎市の養護老人ホームを視察して

とまらない人口の減少と地域の過疎化。それでもこの町に住み続けたいと考える私たちに必要な対策は何か。高齢化に対する町の課題はどこにあるのか、そうした問いに明快な答えはなかなか出てきません。

介護保険がはじまり、それまでの「行政が手当をする措置」から「契約」へと、高齢者福祉政策は大きく転換しました。13年が経過し介護保険はようやく住民の間に浸透してきましたが、制度としての課題は残されています。制度からこぼれ落ちる需要の一つが「低所得で住居に困っている高齢者」です。その受け皿となっているのが養護老人ホームで、法律に基づき行政の判断で入所が決まる措置施設です。最近都会では、派遣切りが原因と思われるホームレスなど新たに支援が必要な人が増えていて、施設の必要性が高まっているそうです。こうした格差の拡大は経済政策のひずみが生んだものです。

東京都の離島で養護老人ホームがあるのは八丈島だけです。日頃、八丈島に養護老人ホームが存在する意味や島外にある施設との違いなどを知りたいと考えていたので、昨年11月の行政視察で高崎市の施設を訪ねました。

**改築したばかりの養護老人ホーム** 高崎駅から約2kmほどの市街地にある、3年前に全面改築された定員40人の施設で、社会福祉法人「希望館」が運営しています。1階と2階を合わせて32室(2人部屋を含む)、建物の中心に談話室を兼ねた食堂があり、それを囲むように居室が並んでいます。天井が高く天窓があるので曇っていても館内は明るくて開放的でした(写真)。入居者専用のトイレが1階に5つ、2階に6つあり、一つ一つが広い個室で温水洗浄便座で、誰がどのトイレに入るかがほぼ決まっているとのことでした。入居者35人にとって、生活面での安心につながる大切な心配りだと思いました。



**工事費とその財源は** 整備費は主体工事3億5千万円と特別養護老人施設整備(将来養護の一部を特養に転換するための工事)7千万円、その他をあわせて4億8千万円です。その財源は、県の補助金1億3千万円、自己財源1億5千万円、借入金2億円となっています。東京都と比べて工事費が安いことを考慮しても、意外に安いという印象を持ちました。

**多角経営だからこそ** 「希望館」は児童養護部、老人施設サービス部、老人在宅サービス部の3つに分かれていて、老人施設サービス部には、この養護老人ホームのほか、特別養護老人ホームとケアハウス(3食付高齢者住宅)がありました。歴史は古く、創始者が大正12年の関東大震災の被災者を自宅に引き取ったことに始まります。高齢者福



前ページより続く

社の道一筋に歩んできた経験が、施設や経営の随所に生かされていました。精神障害者や元受刑者やホームレスなど、最近では入所者が多くなっていて必要な施設であるとしながらも、将来的には特養に転換できるよう設計し、多角経営によって赤字分を補てんするなど柔軟な運営を実現させていました。

**町は独自の対策を** 訪ねた施設は、学ぶべき点はたくさんあったものの、人口や財政の規模が八丈町と違いすぎるので、やはり町の状況にあった独自の福祉政策をたてるべきだと思うにいたりました。八丈町の場合、都会と同じような必要性があるとは思えないので、こうした対象者がどれだけあるかをまず精査しなければなりません。また、養護入所者のほとんどが特養待機者である状況も踏まえて、町の規模と要望にふさわしい高齢者福祉のあり方を考えるべきでしょう。このような視点にたって、これからも町に提言していきたいと思えます。

## 八丈島ジャージー牛乳がデビュー

昨年5月中旬に八丈産牛乳の生産がストップし、がっかりした方も多かったのではないのでしょうか。昨年12月26日、ついに八丈島のスーパーに八丈島ジャージー牛乳が並びました。「これまでのものとはまったくことなる上質の牛乳」とのキャッチフレーズです。

- ① 牛がホルスタインからジャージー種になったこと。
- ② 乳脂肪の割合が約4%と格段に高いこと。
- ③ 栄養分が損なわれることのない、65℃、30分の低温殺菌であること。
- ④ 脂肪球を壊さない「ノンホモゲナイズ牛乳」であること。

このような違いがあるうえに、とてもおいしい牛乳です。

ただ、価格が高いため購入に二の足を踏む方がいらっしゃるかもしれませんが、健康のためにも週に1度くらいは飲んで地産地消を進めていきましょう。島独自の牛乳が誕生したことで、これまで町が力を入れてきた畜産の振興にも刺激を与えることになるかもしれません。かつての酪農王国の再生につながるよう応援していきたいものです。



## 航空運賃が上がる?

1月1日に全日空が発表した航空運賃の値上げには、住民みんなが怒り、戸惑い、落胆しています。運賃改定が届け出制になったとは言え、値上げの幅が大きかったこと、全日空と町との間に事前に連絡するというこれまでの紳士協定も守られなかったことから、一方的な決定だと言わざるをえません。

2月14日の町議会全員協議会では、できるだけ多くの議員で国土交通省大臣に訴えること、住民の代表である議会は住民の身になって厳しい現状を伝えること、定住促進をうたっている離島振興法など法令に従い、毅然と主張することを確認しました。また、町が全日空の株主になったらどうかという提案もありました。あらゆる手段を使って交渉を前進させるために、町と議会が一体となって動くよう力を尽くしていきたいと思えます。



# 2013年12月議会 一般質問



## 1. 町の高齢者福祉政策のなかで養護老人ホームをどう位置づけているか

町が平成18年に養護老人ホームを建て替える方針を出したのに対し、養和会はあえて建て替えず在宅介護の充実をはかることで将来的になくなっていく方向で考えたいとしている。双方の見解が異なる中、現状を知る必要があるため次の質問をする。①養護老人ホームにかかる年間の財政負担はどれくらいか。その役割はどのようなものと考えているか。②老朽化した施設の今後について具体的な計画をたてているか。

**町** ①利用者の負担金が2000万円なので、措置費として一般財源から約8000万円が支出されている。役割については、健康上、経済上自宅での生活が困難の方がいるので、その受け皿としての役割があり措置することは必要と考える。②運営を養和会にゆだねているので、町が計画を出すものではないが、養和会は当面修理を行うことで利用者に不便がないようにしていくとのことだ。

**再質問** 町は行政の責任として措置するというが、この方法は最善か。この8000万円は、国の地方交付税であり、補助金とは異なり用途が特定されていない。つまり、養護の経費は一般財源なので、養護の入所者がすくなければ少ないほど、財源はほかの事業に使えるということの意味するのでは。

**町** 財源は交付税だが他の事業を圧迫することはないような配分をしている。

**再々質問** 養護を特養予備軍と考えているとしたら、財政負担が大きいだけに心配。これまで、町は財源がないからと消極的だった施策、たとえば福祉タクシーの導入や24時間対応定期巡回・随時対応サービスの実現、医療との連携などに力を入れ、根本的なところから洗い直した計画が求められる。

**町** 特養予備軍とは考えていない。27年度の第6期介護保険改善策と合わせて考える。

## 2. 町の防災体制の強化を

今回(昨年10月)ような甚大な被害をもたらした台風に対し町はよりきめ細かな防災対策が必要と考える。

①大雨による被害を最小限にとどめるためにどのような対策を考えているか。②避難勧告を出す状況になった場合、高齢者、障害者の避難方法・場所をどのように考えているか。また、ペットの避難対策はあるか。

**町** ①警戒区域を特定し、土砂災害は危険箇所を周知することで対処する。  
②公民館の開放や、要援護者の養和会への避難などを呼びかけた。関係機関と連携し、高齢者から障害者へ広げていく。ペットへの対策はしていないので今後の検討課題としたい。

**再質問** 昨年夏に環境省は「災害時におけるペットの救護対策ガイドライン(指針)」を作っている。積極的に対応すべき。

**町** ガイドラインについては調査してみる。

## 3. 観光協会の支援策のひとつとして、協会を通じた予約の推進を

観光協会の経営が悪化した原因の一つは、宿泊やレンタカーなどのあっせん手数料の減少と考えられる。できる限り協会を通じた予約を推進すべきと考える。①役場、支庁、学校関係の来島者や、町主催のイベント時の来島者については、協会を通すのが望ましいと思うが。

**町** 時代の変化により、手数料収入が減ったが、今後は受託業務の検討や協賛金の活動が必要と考える。提案については可能な限り協力し連携もしていくが、役割を明確化し協会の自立を支援していきたい。

## 12月議会 一般質疑

## 私の発言から

●**汚泥再生肥料の配布** 1袋100円で配布したが農家の方がたくさん持って行って、一般の人にわたらない事態になったようだ。配布方法に問題はなかったか。また、1袋100円は、農協で販売されている肥料に比べ安すぎるので問題はないか。

町——汚泥肥料は概して人気がないので、こんなに需要があると考えなかった。その後は予約制にした。すでに180袋申し込みがある。100円は再生センターに取りに来てもらう場合の価格であり、届ける場合には上乗せする予定だ。

●**外科医の採用** 11月から採用された外科医の経歴と契約年数は。

町——外科医は49歳で順天堂大卒、横浜総合消化器センターの院長を務めていた。町の職員として採用したので、できれば定年まで勤めていただきたい。

●**廃棄物処理費用** 有価物としてスタートしたダンボールや新聞・雑誌の処理費用は、今や年間1500万円を越えている。リサイクルは大切ではあるが、年々町の財政を圧迫しているの、きちんと燃やすという条件で燃やすものと資源化するものを精査することを検討してほしい。

町——廃棄物処理費用は年々上昇しているの、検討課題としたい。

●**後継者対策** 後継者対策が遅れていることは町長も認めているところだが、担い手研修制度や、水産研、八農振などへの補助金はこれまで通り。これでは若手の育成ができないのでは。様々な分野にわたる広く抜本的な後継者対策が必要と思うが。

町長——研修制度は他からも注目されている町が目玉の事業である。これからも力をいれていく。広い分野への対策は今後の検討課題で、来年度予算に反映するのは時期尚早と考える。

●**多目的ホールの利用料** まずホール使用料はリハーサルと当日の2回、イベントが夜の場合は入場料をとると4万円かかる。加えて舞台、照明、音響にそれぞれ監督料として18000円、合計54000円かかる。機材を使わなくても使用時間が短くても、10万円近く払わなくてはならない。これでは使えない。高すぎる。住民が使いやすい料金設定にすべきだ。

町——ホールの利用料と監督にかかる費用は、利用者が払うべきと考える。

●**介護初任者研修** 3年ぶりに再開したヘルパー講習。55000円の受講料負担にも関わらず受講者23人は評価したい。今後ますます必要となる職種であり町の負担は多少あると思うが講習を続けてほしい。

町——辞退者があったので21名が受けているが、すべて事業所に勤務している人である。来年度については未定だ。

## 編集後記

1月5日に、成人祝賀式が行われました。今回は町の多目的ホールで行う初の祝賀式となりました。晴れ着に身を包んだ20歳の若者たちは、みなはつらつとしていました。誓いの言葉も意見発表も内容が充実していて頼もしく聞きました。



議長があいさつの中で、成人になった心構えとして選挙権を無駄にしないよう呼びかけたことに、心の中で拍手しました。私の知る限り、歴代の議長の中で選挙権の行使に触れたのは、はじめてでしたから。この権利を使って政治参加を実感しましょう。

さちこのニューズレター  
第四四号 / 二〇一四年二月  
編集発行 奥山幸子  
イラスト 奥山幸子